



## 政治とメディアの影響力

もぎ のりえ  
茂木 規江

●アダム・ミツケヴィチ大学 民族言語学科 講師

2023年3月3日に、西ポモルスキェ地方県都シチェチン選出の野党PO（市民プラットフォーム）マグダレナ・フィリクス議員が、SNSで息子ミコワイさんの葬儀日程を告知した。そこには、3月の誕生日を目前にした2月17日に15歳で自らの命を絶ったこと、また彼女と娘達の願いとして「葬儀当日は家族のプライバシーを尊重し、メディアは来ないでほしい」と記されていた。これに衝撃を受けた報道関係者が、意図的に行われた不適切な報道によってミコワイさんが追い詰められ自死したのだと、抗議の声を挙げその波紋が広がっている。

不適切な報道とは、2022年12月29日に国営ラジオ局ラジオ・シチェチンの編集長トマン・ドゥクラノフスキ氏が、複数のWebサイトに掲載した小児性犯罪に関する記事で、現在も閲覧可能な状態だ。2020年に逮捕された犯人は、薬物使用及び児童虐待の罪で既に服役している。当時、被害者保護のため裁判は非公開だった。ところが問題の記事は、「被害者は有名女性国会議員を母に持つ13歳の男子と16歳の女子」と、事件当時の実年齢を公表している。既に刑が確定した事件を、1年もたって再度報道したのは、この秋に行われる議会選挙が関係していると言われている。したがって政権与党PiS（法と正義）は、野党第一党PO

に揺さ振りかける狙いから、29日の記事は犯人がPOの関係者で、2020年の大統領選挙では、野党候補者チャスコフスキ、ワルシャワ市長を支援したと伝えた。そして、PiSが敵視するLGBTを積極的に支持していたことも強調されている。

3月4日、Gazeta Wyborcza新聞は、PiS支配下の国家放送評議会ですえ、ラジオ・シチェチンの行き過ぎた報道が、非倫理的で、児童性被害の個人情報保護違反に該当するとして、調査を開始したと発表した。その4日後、同新聞は次のように報じている。200人を超える記者が、「自殺の背景が明らかになるまでは、政府系メディアからの招待に応じるな」と報道関係者に呼びかけ、海外のメディア関係者にも支援を求めた。野党議員も同様に、他の国会議員に対し「政府系メディアに出て、政府のプロパガンダを支持する価値があるか、各自が良心的に判断すべきだ」と忠告した。その後、900人を超えるメディア関係者がミコワイさんの死に触れ「政府の嘘」を指摘することで、フィリクス議員との連帯を表明していた。国内主要メディアの編集長や副編集長が署名をした「放送倫理原則違反」を訴える声明文には、『ドゥクラノフスキ氏、そしてフィリクス議員及び家族へのネガティブ・キャンペーンに関わっている人々は、報道の基礎に反した行為に対して罰を受けるべき



---

だ』と記されている。そしてドゥクラノフスキ氏がドゥダ大統領から授受した勲章は剥奪されるべきとする意見書にも1500人以上の人の署名が集まった。

3月12日にインターネットサイトNiezalezna.plに掲載されたドゥクラノフスキ氏のインタビューでは「自分は被害者が特定できる情報は公開していない。有名女性『国会議員』の子供とは書いたが『下院議員』とも述べていない。被害者が特定可能な情報を最初に暴露したのはジャーナリストのトマン・テルリコフスキ氏だ。」と主張した。これに対しGazeta Wyborcza新聞は「これは印象操作で、死者に対する悼みや同情もなく、むしろ誹謗中傷を広めた」と異議を唱えた。

フリクス議員は3人の子の母親で、LGBTや妊娠中絶の完全な非合法化に反して、大規模なデモを行った団体の「女性ストライキ」支持者としても知られている。さらに彼女は、PiSが2015年に政権を握った後に設立された、民主主義防衛委員会の創設者の1人で、元委員長でもあった。臆することなく与党を批判し続けているので、PiSから常に攻撃を受けている。その上、政府系メディアのラジオ・シチェチン、国营テレビ局TVPのニュース番組で虚偽や与党プロパガンダが激しいと言われるTVP Infoや国营最大手の石

油会社が所有するGłos Szczeciński新聞が原因となったヘイトスピーチの標的となっていた。ところが12月29日以降は、その対象がフリクス議員の家族にまで及び、右派議員や出版社からのネット暴力にさらされている。

Gazeta Wyborcza新聞は、ミコワイさんは政治的に利用されたのであり、彼の母親を政治的に失墜させるために仕組まれた、ネガティブ・キャンペーンに端を発していると分析する。加えて、PiSが今秋の選挙を有利に戦うため政府系メディアを操り、POの勢力が強い西ポモルスキ地方に揺さ振りかける狙いがあったとされる。フリクス議員の家族は、犯罪被害者としてメディアにより二次被害を被り、未だに誹謗・中傷に悩まされている。フリクス議員が母親だから子供が二次被害を受けなければならなかったのだろうか。彼女が野党議員として民主主義や人権を守るために戦ってきたから、息子の死という代償を払わなければいけなかったのだろうか。PiS政権になり、マスコミ、検察や司法までもに影響力が及び、民主主義の危機が叫ばれている中で、この事件の捜査がどこまで進むかは分からない。それでも、圧力に屈しないメディアが声を上げ続け、それに耳を傾ける人達がいるかぎり、民主主義は消えない。